

令和 4 年度

介護福祉科 シラバス

**こころ医療福祉専門学校
(学校法人 岩永学園)**

介護福祉科2年(CW21A, CW22A)

					1年次		2年次	
			単位	時間	前期	後期	前期	後期
人間と社会	人間の理解	講義	2	30	30			
	人間関係とコミュニケーション	講義	2	60	30	30		
	社会と制度の理解Ⅰ	講義	2	30		30		
	社会と制度の理解Ⅱ	講義	2	30			30	
	国語表現	講義	2	30		30		
	地域福祉論	講義	2	30			30	
	福祉情報処理	演習	4	60			30	30
介護	介護の基本Ⅰ	講義	4	60	30	30		
	介護の基本Ⅱ	講義	4	60			30	30
	介護の基本Ⅲ	講義	4	60				60
	コミュニケーション技術	講義	4	60	30	30		
	生活支援技術A(実技基礎)	実技	2	60	60			
	生活支援技術B(実技応用)	実技	2	60			60	
	生活支援技術C(被服20・住居10)	演習	4	60	60			
	生活支援技術D(栄養/調理)	演習	4	60				60
	生活支援技術E(重複障害者の介護)	講義	2	30		30		
	生活支援技術F(内部障害)	講義	2	30			30	
	介護過程Ⅰ	講義	4	60	30	30		
	介護過程Ⅱ(ケアマネジメント)	講義	2	30			30	
	介護過程Ⅲ(演習)	演習	4	60				60
	介護総合演習Ⅰ	講義	4	60	30	30		
	介護総合演習Ⅱ	講義	4	60			30	30
	介護実習(最終実習に夜勤1回含む)	実習	15	456	80	176	200	
のこ しく みと から だ	発達と老化の理解	講義	4	60	30	30		
	認知症の理解	講義	4	60	30	30		
	障害の理解Ⅰ	講義	2	30		30		
	障害の理解Ⅱ	講義	2	30			30	
	こころとからだのしくみⅠ	講義	4	60	30	30		
	こころとからだのしくみⅡ	講義	4	60			30	30
	機能的解剖学	講義	2	30		30		
	医療的ケアⅠ	講義	2	34		34		
	医療的ケアⅡ	講義	2	34			34	
	医療的ケアⅢ 演習	演習	4	60				60
			111	1994	470	600	564	360
選択	整体療法学	実技	2	60			60	
			113	2054	470	600	624	360

シラバス（授業計画書）

科目名（ 社会と制度の理解Ⅱ ）

学科名 介護福祉科

学年 2年

1 授業の概要

本授業では、障害者支援の法制度を理解するとともに、人々の権利を擁護する制度や医療保険制度を始め介護に関わる医療関係者との連携に必要な法規などについて学び、担当教員の実務経験を基に、実際のサービス・制度利用者の事例を参考にしつつ、介護実践に関わる基礎的知識を習得する。

2 到達目標

- ① 障害者が地域で自立した生活を送るために、どのような法制度が整備されて運用されているのか理解することができる。
- ② 高齢者や障害者を始め、人々が有する権利などを理解し、障害者や高齢者などが安心して地域で暮らしていくための法制度を学び、生活を支えるための基礎的知識を習得することができる。

3 授業の方法

教科書，その他の資料を用いながら，講義形式で進めていく。

4 成績評価方法・基準

定期試験	60%
レポート	20%
授業態度	20%

5 評価の際の特記事項

定期試験及びレポートの提出，受講姿勢をもとに評価を行います。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書には多くの知識が書かれています。授業前後にしっかりと読み込んでください。

7 使用教材，教具

最新・介護福祉士養成講座 社会の理解 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

分かりやすいように授業を進めていきますので，しっかり授業に参加してください。また，分からない点があれば，積極的に確認してください。

9 教員氏名 （ 山崎 紘史 ）

所 属 （ 社会福祉法人 実寿徳会 ）

実務経験の詳細（ 介護施設にて社会福祉士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 社会と制度の理解Ⅱ ）

回数	授業内容
1	第3章 介護保険制度 第2節 介護保険のしくみ②
2	第3章 介護保険制度 第3節 介護保険制度にかかわる組織とその役割
3	第3章 介護保険制度 第4節 介護保険制度における専門職の役割
4	第3章 介護保険制度 第5節 介護保険制度改正の流れと地域包括ケア
5	第4章 障害者の支援を担う法制度 第1節 障害者の自立と障害者自立支援制度の目的
6	第4章 障害者の支援を担う法制度 第2節 障害者福祉施策の動向
7	第4章 障害者の支援を担う法制度 第3節 障害者自立支援制度のしくみ
8	第4章 障害者の支援を担う法制度 第4節 障害者自立支援にかかわる組織とその役割
9	第5章 介護実践にかかわる諸制度 第1節 人々の権利を擁護する諸制度
10	第5章 介護実践にかかわる諸制度 第2節 保健医療にかかわる諸施策
11	第5章 介護実践にかかわる諸制度 第3節 医療にかかわる法と諸施策
12	第5章 介護実践にかかわる諸制度 第4節 生活を支える諸制度のあらまし
13	第5章 介護実践にかかわる諸制度 第5節 高齢者・障害者の住生活を支援する諸制度
14	講義振り返り・ポイント復讐・レポート
15	定期試験
16	解答返却及び解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 地域福祉論 ）

学科名 介護福祉科

学年 2年

1 授業の内容

誰もが暮らしやすい社会を目指して、障害がある等の理由で不便な生活を送ることがなくなるためには、どうしたらいいか一緒に考え学習していく。

2 到達目標

障害を知る，社会資源を知る，障害のある方の個の力を引き出す力を考え，介護福祉士として何ができるかを考える機会とする。

3 授業の方法

P C プロジェクターを利用したパワーポイントによる講義の他，講義内容に関連する課題に対するグループワーク等を実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験	70%
小テスト（レポート）	20%
授業態度	10%

5 評価の際の特記事項

授業態度（態度，発言の信頼性，出欠席）をもとに評価する（居眠り厳禁）。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配付している資料を復習により，さらに知識を深める。

7 使用教材，教具

テキストは特に指定なし，必要に応じて資料（プリント）を配付。

8 学生へのメッセージ

積極的に学び，福祉，障害に向き合えるきっかけになることを期待する。

9 教員氏名（ 城戸 修一 ）

所 属（ 社会福祉法人 ウイキャン・サポート ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 地域福祉論 ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション・『障害』について
2	障害者の災害支援について
3	身体障害者の歴史 身体障害者の特性とその支援
4	施設見学・スポーツレクを体験しよう①
5	施設見学・スポーツレクを体験しよう②
6	障害福祉センター説明・スポーツ紹介
7	ストレングスについて
8	社会資源を知る(バリアフリー)・インフォーマル支援を考える
9	福祉サービスを知る
10	精神障害者の特性とその支援
11	知的障害者の特性とその支援
12	ピアカウンセリングについて(当事者を知る)
13	障害者虐待についてその対策と支援・アンガーマネジメントについて
14	ケアマネジメント演習
15	定期試験
16	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 福祉情報処理 ）

学科名 介護福祉科

学年 2年

1 授業の内容

Word による文書作成, Excel による表計算・グラフ作成・データベース機能の利用, PowerPoint によるプレゼンテーション作成など, Office の基本について学習する。

2 到達目標

各アプリケーションの機能概要と作業の効率化について理解し, 就職後の業務に利する知識と技術を習得する。

3 授業の方法

講師用 PC の画面をプロジェクターで映写し, 各機能について実際の作業を一緒に行いながら説明する。单元ごとに練習問題を課し, 復習を繰り返して知識と技術の定着を図る。

4 成績評価方法・基準

定期試験 → 70% , 授業態度 → 30%

5 評価の際の特記事項

授業態度は, 授業内課題への取り組み, 質問への返答などを総合的に評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

テキストに沿って予習・復習を行う。特に復習に注力し反復練習することで, 操作が定着して応用的な知識の習得へとつながる。

7 使用教材, 教具

「よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019」(FOM 出版)

8 学生へのメッセージ

Office の操作に関する知識は, 就職後必ず必要になりますし, 日常生活でも役に立ちます。本授業で基本をしっかり身に付けると同時に, パソコン操作の楽しさを見出し, 長期的なスキルアップにつなげていきましょう。

9 教員氏名（ 家富 浩人 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 福祉情報処理 ）

回数	授業内容
1	PC とアプリケーション（Office2019）の全体説明
2	PowerPoint 基礎知識
3	PowerPoint 画面構成
4	PowerPoint プレゼンテーションの確認
5	PowerPoint プレゼンテーションの作成
6	PowerPoint テーマ、プレースホルダーの操作
7	PowerPoint 図形挿入と SmartArt グラフィックの作成
8	PowerPoint 練習問題 1
9	PowerPoint スライドショーの実行
10	PowerPoint 画面切り替え効果の設定
11	PowerPoint アニメーションの設定
12	PowerPoint プレゼンテーションの印刷
13	PowerPoint 開発者ツールの利用
14	PowerPoint 練習問題 2
15	前期定期試験
16	前期定期試験 答案返却及び解説
17	Word 基礎知識
18	Word 文書作成
19	Word グラフィック機能
20	Word ワードでの表作成
21	Word 練習問題 1
22	Word 練習問題 2
23	Excel 基礎知識
24	Excel データ入力
25	Excel エクセルでの表作成
26	Excel グラフの作成
27	Excel データ分析
28	Word・Excel アプリケーション間でのデータ共有
29	Excel 練習問題 1
30	Excel 練習問題 1
31	後期定期試験
32	後期定期試験 答案返却及び解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護の基本Ⅱ ）

学科名 介護福祉科

学年 2 年

1 授業の内容

介護を必要とする対象者の暮らしの理解・支援に関する基礎的知識や、多職種連携・協働による介護実践、介護における安全の確保とリスクマネジメントの必要性、また介護従事者自身の健康管理、労働環境について理解し、介護福祉士としての学びを深めていく。

2 到達目標

- ①介護を必要とする人の個別性と多様性について理解し、「その人らしさ」を支援することの意義について考えを述べることができる。
- ②多職種の専門性や役割と機能から、介護福祉士との連携・協働のあり方について考察できる。
- ③介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全対策の必要性について述べることができる。

3 授業の方法

普通教室にて、座学及びグループワーク

4 成績評価方法・基準

定期試験 60% レポート・提出物 20% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業内にて配布する課題やグループワークへの取り組み姿勢も考慮します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の振り返りを国家試験問題での出題と照らし合わせて、理解していきましょう。

7 使用教材、教具

新・介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

介護を必要とする人の生活について理解を深め、介護福祉の専門職としての能力と態度を養いましょう。

9 教員氏名（ 谷口 幸太郎 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

経 験（ 介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 介護の基本Ⅱ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	生活の個別性と多様性
3	介護を必要とする人たちの暮らしについて考える
4	介護を必要とする人たちの暮らし 高齢者の暮らし
5	介護を必要とする人たちの暮らし 障害者の暮らし
6	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ①
7	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ②
8	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ③
9	なぜ多職種協働・連携が必要なのか
10	多職種協働・連携の必要性の理解
11	協働する多職種の理解
12	協働する多職種の機能と役割①
13	協働する多職種の機能と役割②
14	まとめ
15	前期試験
16	答案返却および解説
17	介護における安全確保とリスクマネジメント(安全確保の重要性)
18	介護における安全確保とリスクマネジメント(事故防止, 安全対策)
19	介護における安全確保とリスクマネジメント(身体拘束)
20	介護における安全確保とリスクマネジメント(感染管理)
21	介護に携わる人の健康管理(意義と目的)
22	健康管理に必要な知識と技術(こころの健康管理)
23	健康管理に必要な知識と技術(身体の健康管理)
24	安心して働ける環境づくり(労働環境, 介護労働)
25	労働者の安全・安心を守る法律
28	介護を取り巻く状況の変化と自身の学び方
29	介護とは何か
30	まとめ
31	後期試験
32	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護の基本Ⅲ ）

学科名 介護福祉科

学年 2年

1 授業の概要

介護の基本Ⅰ，Ⅱで学習したことを振り返り，カリキュラムにおける領域「介護」項目に含まれる福祉の歴史，制度，法律など中心に復習し，国家試験対策に準じた授業を行う。

2 到達目標

介護福祉の基本となる理念や，地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し，介護福祉の専門職としての能力と態度を養うことができる。

国家試験合格のため，問題内容が理解でき，授業内テスト，模試においては確実に正答率70%以上をとることができる。

3 授業の方法

介護の基本Ⅰ，Ⅱの振り返りの際には，担当教員の実務経験も交えながら，実際の介護現場を想定し，現場で求められる専門的知識を理解し，身につける。国家試験対策として，国家試験過去問題，模擬問題を中心に講義・解説を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験	60%	授業内テスト	20%	授業態度	20%
------	-----	--------	-----	------	-----

5 評価の際の特記事項

国家試験に向けての大切な授業です。学習への意欲も含めて評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業内で取り組んだ問題は解説を行います，自己学習を行い，教科書，参考書の見直しを確実に行ってください。

7 使用教材，教具

配付プリント，必要な教科書は授業内で周知，介護福祉士国試ナビ

8 学生へのメッセージ

解答した問題について，確実に見直し，やり直しを行い，問題に慣れ，問題の意味が理解できるように，学習習慣を身につけましょう。

9 教員氏名（ 谷口 幸太郎 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

経 験（ 介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 介護の基本Ⅲ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	理解度チェックテスト・解説
3	介護の基本についての整理
4	介護の基本分野の模擬問題、解答解説
5	介護保険、社会保障関連についての整理
6	介護保険、社会保障関連の模擬問題、解答解説
7	介護の基本についての整理
8	介護の基本分野の模擬問題、解答解説
9	障害者総合支援法関連についての整理
10	障害者総合支援法関連の模擬問題、解答解説
11	国家試験模擬問題午前の部解答
12	国家試験模擬問題午前の部解説
13	国家試験模擬問題午前の部解答
14	国家試験模擬問題午前の部解説
15	国家試験模擬問題午前の部解答
16	国家試験模擬問題午前の部解説
17	介護保険法についての整理
18	介護保険法についての整理
19	介護過程、尊厳、自立支援関連の模擬問題解答
20	介護過程、尊厳、自立支援関連の模擬問題解説
21	障害者総合支援法関連模擬問題解答
22	障害者総合支援法関連模擬問題解説
23	生活支援技術関連模擬問題解答
24	生活支援技術関連模擬問題解説
25	尊厳、自立支援関連○×問題
26	制度関連○×問題
27	介護の基本関連○×問題
28	生活支援技術関連○×問題
29	まとめ
30	定期試験
31	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（生活支援技術 B）

学科名 介護福祉科

学年 2 年

1 授業の内容

尊厳の保持や自立・自律を尊重し潜在能力を引き出すことができる。見守り介助などを含め、適切な介護技術を用いて安全に援助できる技術や知識を身につけ、利用者の自立に向けた生活支援のため、状況に合わせた介護技術を選択・活用することができる判断力を取得する。

2 到達目標

- ①様々な生活場面において自立支援の観点から根拠に基づいた介護実践ができる。
- ②利用者の自立した生活の支援のために、状況に合わせた介護技術を選択・活用できる。

3 授業の方法

普通教室にて講義，介護実習室にて実技の授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験（筆記） 40% （実技） 40% 授業及び演習態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度やグループワークでの役割などを考慮します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業内でおこなった学習を自宅でも振り返り，繰り返し練習することで身体に身につけるようにしてください。また，国家試験に出題される語句については教科書にマーカーをつけ覚えるようにします。

7 使用教材，教具

最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ 中央法規出版
最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

授業内でも声をしっかり出していきましょう。

9 教員氏名（ 谷口 幸太郎／井手口 弘明 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

経 験（ 介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 生活支援技術 B ）

回数	授業内容
1	自立に向けた食事の介護
2	自立に向けた食事の介護
3	自立に向けた食事の介護
4	自立に向けた食事の介護
5	自立に向けた排泄の介護
6	自立に向けた排泄の介護 トイレ介助
7	自立に向けた排泄の介護 トイレ介助
8	自立に向けた排泄の介護 オムツ
9	自立に向けた排泄の介護 オムツ
10	自立に向けた排泄の介護 オムツ
11	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 清拭・部分浴
12	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 清拭・部分浴
13	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 手浴・足浴
14	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 手浴・足浴
15	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 個浴
16	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 個浴
17	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 清拭
18	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 清拭
19	事例を用いた介護技術の検討
20	事例を用いた介護技術の検討
21	身支度の意義と目的 全介助の場合
22	身支度の意義と目的 全介助の場合
23	自立に向けた家事の介護
24	自立に向けた家事の介護
25	人生の最終段階における介護
26	人生の最終段階における介護
27	介護技術試験・解説
28	介護技術試験・解説
29	振り返り・まとめ
30	定期試験
31	答案返却および解答解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生活支援技術D 栄養・調理 ）

学科名 介護福祉科

学年 2年

1 授業の概要

食文化や食生活の変化をはじめ、介護福祉士が食の支援を行う上で必要な知識を学習する。担当教員の実務経験を基に、実際の介護現場を想定しつつ、介護を要する方への「食」の支援に必要な知識、技術を身につける。

2 到達目標

それぞれの授業について、キーワードを5個あげて、それについて簡単な説明ができ、調理実習の手順を理解し、料理をきれいに盛りつけできる。

3 授業の方法

栄養、調理に関する知識を深めるため、座学を行った後、実際に調理室にて実習を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験	55%	レポート	5%
小テスト	10%	授業態度	20%
調理実習試験	10%		

5 評価の際の特記事項

授業の出席率、質問の返答、調理実習の積極性も重視します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

「調理」ができるだけではなく、必要な栄養を提供できるよう、栄養に関する知識を身に着ける必要があります。事前に教科書を読むこと、授業後にも教科書、配付資料の読み直し、小テストの復習を行ってください。

7 使用教材、教具

生活支援技術 I 中央法規出版、授業内配付プリント

8 学生へのメッセージ

日常生活の中で、「食」を意識して、授業に臨んでください。調理実習のための忘れ物がないようにしてください。遅刻、欠席をすると授業についていけなくなりますので注意してください。

9 教員氏名 （ 山崎 佳代 ）

所 属 （ 介護老人福祉施設 牧島荘 ）

実務経験の詳細（ 介護施設にて管理栄養士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 生活支援技術 D ）

回数	授業内容
1	食文化・食生活・栄養の理解
2	調理実習(調理の基本)
3	栄養の理解
4	調理実習(調理の基本・食品の保存・食品衛生)
5	献立の立て方・食品の購入と選択
6	調理実習(調理の基本, 食品衛生)
7	食品の調理性
8	調理実習
9	高齢者の身体機能と栄養
10	調理実習(高齢者の食事と調理)
11	障害のある人の栄養と食生活
12	調理実習
13	調理実習(楽しい食事の演出)
14	調理実習(楽しい食事の演出)
15	疾患と食事
16	調理実習
17	食生活に関する施策について
18	調理実習
19	調理の支援とは何か
20	調理プロセスとアセスメント
21	利用者宅での調理方法と進め方
22	調理実習
23	施設における調理介助
24	調理実習
25	調理上のさまざまな工夫や活用
26	調理実習
27	ともに行う介護の視点
28	調理実習
29	まとめ
30	定期試験
31	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生活支援技術 F 内部障害 ）

学科名 介護福祉科
学年 2年

1 授業の内容

障害のある人の心理や身体機能，社会的側面に関する基礎的な知識を習得すると共に，障害のある人の地域での生活を理解し，本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習させる。

また，その人の状況に合わせた介護を行い，障害などがあってもこれまでの生活が継続されるように，現在の状態を把握し潜在能力を引出し，自立を目指して，できる可能性を伸ばしていく個別性を重視した介護の展開について学んでいく。

2 到達目標

身体的な理解と心理的な理解に加え，介護を要する人たちが尊厳を持って，日々その人らしく暮らしていけるように支援するための考え方や技法を習得できるよう実技演習を行う。生活全体を見ながらどのように生活をしていきたいのか，どのように支援することが適切か，潜在能力が導き出せるかなどに着目し，状況に応じた介護技術が提案できる。

3 授業の方法

教科書使用し，国家試験を見据えて重要項目を重点的に講義する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 60% 授業態度 20% 小テスト 20%

5 評価の際の特記事項

質問の返答、グループワークでの積極性を総合的に判断する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画表に沿って，事前に教科書の予習・復習すること。特に復習をすることで知識が定着する。授業で配布する資料は各自がファイリングすること。

7 使用教材，教具

新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅲ 障害の理解（中央法規出版）

8 学生へのメッセージ

他の科目との関連も意識しながら学んでいきましょう。

9 教員氏名（ 吉田 直美 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（ 病院，介護施設にて看護師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（生活支援技術 F 内部障害 ）

回数	授業内容
1	心臓障害①
2	心臓障害②介護上の留意点
3	呼吸障害①
4	呼吸障害②酸素ボンベの取り扱い
5	腎機能障害①
6	腎臓障害②腎機能障害者の生活, 介護
7	膀胱・直腸障害①
8	膀胱・直腸障害②ホローの仕方, パウチ交換
9	小腸機能障害 小腸機能障害者の生活・介護
10	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害 生活・介護
11	肝臓障害①HCV, HB
12	肝臓障害②介護 対応
13	内部障害の食事グループワーク
14	全体まとめ
15	定期試験
16	解答解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護過程Ⅱ ）

学科名 介護福祉科

学年 2年

1 授業の概要

介護過程の展開の理解し、本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を取得する学習とする。

また、ケアマネジメントについて学び、ケアプランと介護計画（個別援助計画）の関係性と違いを理解するための学習を行う。

2 到達目標

①介護計画（個別援助計画）の立案に向けて、根拠に基づいた課題の抽出および目標を立案できる。

②5W1Hを踏まえた、介護計画（個別援助計画）を立案できる。

3 授業の方法

教科書、参考事例を基に事例検討等、講義、演習を行う。

4 成績評価方法・基準

提出物（事例検討）	70%	授業態度	10%	演習への取り組み	20%
-----------	-----	------	-----	----------	-----

5 評価の際の特記事項

提出物（事例検討）は15回目の提出物で評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

介護過程Ⅰの内容を理解していることが前提の授業になります。教科書等でしっかりと復習を行いましょう。

7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座 介護過程 中央法規出版、配布資料

8 学生へのメッセージ

第3段階実習に向けて、介護過程の展開の一連のプロセスをしっかりと理解しましょう。

9 教員氏名（ 谷口 幸太郎 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

経 験（ 介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 介護過程Ⅱ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 介護過程の展開とは(復習)
2	ケアマネジメントの全体像
3	確認テスト, ケアプランと介護計画(個別援助計画)の関係性
4	介護計画(個別援助計画)の立案に向けて①
5	介護計画(個別援助計画)の立案に向けて②
6	事例から介護過程の展開 アセスメント表から課題を抽出
7	事例から介護過程の展開 アセスメント表から課題を抽出
8	個別援助計画の立案作業1-①
9	個別援助計画の立案作業1-②
10	計画の実施, 評価の方法
11	発表, 講評
12	事例から介護過程の展開 アセスメント表から課題を抽出
13	個別援助計画の立案2-①
14	個別援助計画の立案2-②
15	個別援助計画の立案2-③ 提出

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護過程Ⅲ ）

学科名 介護福祉科

学年 2年

1 授業の概要

第3段階実習で展開した介護過程について、実習指導者に参加を依頼したうえで事例検討発表会を実施する。そのための準備作業を進め、Word によるまとめと、PowerPoint を使用した発表資料を作成する。発表後は、国家試験に向けた演習を行う。

2 到達目標

実習で展開した介護過程について振り返りを行い、対象利用者にとって本当に必要な援助は何なのか再検討することができる。

自分が行った支援内容、今後の課題について冷静に分析することができる。

聴き手に伝わる発表ができる。

3 授業の方法

パソコン室にて実施。学生自身が第3段階実習で実施した介護過程の展開の資料を基に発表資料の作成を進める。第3段階実習からこの授業は始まっている。担当教員の助言や、卒業生が関わった利用者様への対応を参考にしながら、よりよい発表、事例検討のためのアセスメント力、発表力を身につける。

4 成績評価方法・基準

事例検討内容	40%	提出物の状況	10%
--------	-----	--------	-----

事例検討発表	40%	発表態度	10%
--------	-----	------	-----

5 評価の際の特記事項

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

提出期限を厳守するためにも、計画的に資料作成を進める。

7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座 介護過程 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

事例検討がよりよいものとなるよう、実習段階で十分なアセスメントを行ってください。実習中からこの授業は始まっています。対象利用者様を思う心を養いましょう。

9 教員氏名 （ 廣瀬 佑 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 介護過程Ⅲ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション(授業の進め方について)
2	第3段階実習の振り返り
3	第3段階実習で行なったアセスメントを参考に利用者情報を文章化する
4	アセスメント表の利用者情報を文章化する
5	第3段階実習で行なったアセスメントを参考に課題, 目標を書き込む
6	アセスメント表の課題, 目標の書き込み
7	アセスメント表の実施状況の書き込み
8	考察, 結論, まとめを完成させる
9	考察, 結論, まとめを完成させる
10	完成した本文を参考に抄録作成
11	抄録作成, 本文, 抄録提出
12	発表用資料の作成(パワーポイント資料)
13	発表用資料の作成(パワーポイント資料)
14	発表用資料の作成(パワーポイント資料)
15	発表用資料の作成(パワーポイント資料, 発表原稿の作成)
16	発表用資料の作成(パワーポイント資料, 発表原稿の作成)提出
17	事例検討発表会練習
18	事例検討発表会練習, 本文, パワーポイント最終提出
19	事例検討発表会練習
20	事例検討発表会
21	事例検討発表会
22	事例検討発表会
23	事例検討発表会
24	国家試験対策授業, 模擬試験
25	国家試験対策授業, 模擬試験
26	国家試験対策授業, 模擬試験
27	国家試験対策授業, 模擬試験
28	国家試験対策授業, 模擬試験
29	介護過程の展開に関する振り返り, 今後の課題
30	介護過程の展開に関する振り返り, 今後の課題

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護総合演習Ⅱ ）

学科名 介護福祉科

学年 2年

1 授業の概要

介護実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、総合的に学習する。
実習の振り返りを行い、反省をもとに最終段階実習の課題を明確にし、実習に向けた心構え、学習内容について学生自身が気づくことができるよう、授業を展開していく。最終実習終了後は、事例検討発表会の準備、国家試験に向けた授業も行う。

2 到達目標

様々な生活の場において、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解できるようになる。

3 授業の方法

実習に必要な心構え、マナー、介護に必要な知識、技術を身につけるため、担当教員の実務経験やこれまでの卒業生の事例、教科書や配付資料、実習記録を用いながら演習、講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験（レポートの場合もある） 60% ， 授業態度 20%
実習目標提出等 20%

5 評価の際の特記事項

この科目の取り組みは実習評価とも連動します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習先の理解、利用者理解のための事前学習、事後学習、調べ学習を行ってください。

7 使用教材、教具

介護総合演習・介護実習 中央法規出版、配付資料、実習記録

8 学生へのメッセージ

自分の課題・目標、利用者の状況把握・課題等について、幅広い視野を持って明確化できるように、他科目の学習を深めましょう。
また、自分の考え、思いを「言葉」や「文字」に表せるよう、積極的に意見交換、発表を行い、人と話す機会を大切にしていきましょう。

9 教員氏名 （ 廣瀬 佑 ／ 吉田 直美 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（ 吉田：病院、介護施設にて看護師としての勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 介護総合演習Ⅱ ）

回数	授業内容
1	第2段階実習の振り返り，実習報告会準備
2	第2段階実習報告会
3	第2段階実習報告会
4	第3段階実習先選定
5	第3段階実習配属先の決定・書類作成(個人票，実習目標，誓約書等)
6	第3段階実習配属先の決定・書類作成(個人票，実習目標，誓約書等)
7	第3段階実習配属先の決定・書類作成(個人票，実習目標，誓約書等)
8	第3段階実習の心構え・アセスメント・個別援助計画書作成のための事例検討
9	第3段階実習の心構え・アセスメント・個別援助計画書作成のための事例検討
10	第3段階実習の心構え・アセスメント・個別援助計画書作成のための事例検討
11	第3段階実習の心構え・アセスメント・個別援助計画書作成のための事例検討
12	第3段階実習の心構え・アセスメント・個別援助計画書作成のための事例検討
13	第3段階実習の振り返り
14	第3段階実習の振り返り
15	定期試験
16	答案返却と解説
17	事例検討発表会準備(本文作成，アセスメント内容)
18	事例検討発表会準備(本文作成，アセスメント内容)
19	事例検討発表会準備(本文作成，実施状況)
20	事例検討発表会準備(本文作成，実施状況)
21	事例検討発表会準備(本文作成，考察、結論，まとめ)
22	事例検討発表会準備(パワーポイント資料作成)
23	事例検討発表会準備(発表練習)
24	事例検討発表会準備(発表準備)
25	事例検討発表会準備(発表準備)
26	国家試験模擬試験解答・解説
27	国家試験模擬試験解答・解説
28	国家試験模擬試験解答・解説
29	国家試験模擬試験解答・解説
30	まとめ
31	定期試験
32	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護実習 ）

学科名 介護福祉科

学年 2年

1 授業の概要

福祉施設にて25日間の介護実習を行う。

利用者様とかかわり、介護を必要とする方のニーズについて理解を深め、介護福祉士の仕事について学ぶ。
介護過程の展開を体験的に学び、理解することができる。

2 到達目標

介護過程の展開（アセスメント、計画の立案、実施、評価）を体験的に学び、理解することができる。

3 授業の方法

実習受入を契約している施設、事業所の住所地、実習受入可能人数等から配属先を検討し、1～3名程度配属する。実習中は、各施設の実習指導者や職員からの指導を随時受けながら、利用者様とコミュニケーションを図り、生活支援技術の見学、補助、実践と段階を踏みながら、学びを深め、介護過程の展開（アセスメント～評価）を行う。

4 成績評価方法・基準

実習評価表 70% 実習記録 10% 巡回指導時の学習態度 20%

5 評価の際の特記事項

体調管理も含む

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各科目の教科書、実習の手引き、実習施設の資料など熟読すること。可能な限り、自主的にボランティア活動に参加するなど、介護を必要とする方への理解を深める。

7 使用教材、教具

新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・実習 中央法規

8 学生へのメッセージ

学校では学べないことを学べるのが、介護実習です。介護実習は、学生自身が作り上げていくものです。学ばせていただけることに感謝をし、自分自身が何を学びたいのか明確にした上で、積極的に取り組みましょう。

9 教員氏名（ 吉田 直美，谷口 幸太郎，廣瀬 佑 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細 吉 田：病院、介護施設にて看護師として勤務経験あり

谷 口：介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり

10 特記事項

実務経験のある教員および通常教員による授業科目

回数	授業内容
1	介護実習Ⅱ 【実習期間, 時間】 2年前期 200時間(8時間×25日間)
	【実習場所】 特別養護老人ホーム, 介護老人保健施設, 障害者支援施設, 救護施設等実習施設Ⅱの施設
	【実習内容】 ・各施設の理念, 介護方針, 業務内容等について理解する。 ・コミュニケーションを中心に, 利用者様とかかわり, 介護を必要とされている方のニーズについて学ぶ。 ・介護職員の社会的役割等, 求められていることを学び, 介護福祉士の業の実際を学ぶ。 ・生活支援技術の見学, 補助, 実践を体験する。 ・実習先の施設の特徴を体験的に学び, 理解することができる。 ・個々の利用者の状態, 状況に合わせた生活支援技術を体験的に学ぶ。 ・介護過程の展開において, 利用者様, 実習指導者, 職員から情報を収集し, 適切なアセスメントにつなげる。 ・介護過程の展開において, 介護職だけでなく, 他専門職からも情報, 知識を収集し, 適切なアセスメントにつなげる。 ・介護過程の展開において, 利用者のニーズに即した介護計画が立案できる。 ・多職種連携の実際を学ぶ。 ・実習記録の作成

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護実習 ）

学科名 介護福祉科

学年 1, 2年

1 授業の概要

福祉施設にて1年次に10日間(第1段階)、22日間(第2段階)の実習を、2年次に25日間（第3段階）の介護実習を行う。

利用者様とかかわり、介護を必要とする方のニーズについて理解を深め、介護福祉士の仕事について学ぶ。

2 到達目標

- ・コミュニケーションを中心に、利用者様とかかわり、利用者様の暮らしの場を理解できる。
- ・介護福祉サービス利用者のニーズに対する介護の機能、介護職員の一般的な役割について理解できる。
- ・日常生活援助の実際を見学し、個々に応じた介護技術の実際について学ぶことができる。
- ・自立支援、尊厳を支えるケアの実際を学ぶことができる。
- ・第3段階実習では、介護過程の展開（アセスメント、計画の立案、実施、評価）を体験的に学び、理解することができる。

3 授業の方法

実習受入を契約している施設、事業所の住所地、実習受入可能人数等から配属先を検討し、1～3名程度配属する。実習中は、各施設の実習指導者や職員からの指導を随時受けながら、利用者様とコミュニケーションを図ったり、生活支援技術の見学、補助、実践と段階を踏みながら、学びを深める。第3段階実習では、担当利用者様の情報を収集し、課題を抽出、その方に適した援助計画を立案し、実施、評価を行う。

4 成績評価方法・基準

実習評価表 70% 巡回指導時の学習態度 20% 実習記録 10%

5 評価の際の特記事項 体調管理も含む

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各科目の教科書、実習の手引き、実習施設の資料など熟読すること。可能な限り、自主的にボランティア活動に参加するなど、介護を必要とする方への理解を深める。

7 使用教材、教具 最新 介護福祉士養成講座 介護総合演習・実習 中央法規

8 学生へのメッセージ

学校では学べないことを学べるのが、介護実習です。介護実習は、学生自身が作り上げていくものです。学ばせていただけることに感謝をし、自分自身が何を学びたいのか明確にした上で、積極的に取り組みましょう。

9 教員氏名 （ 吉田 直美，谷口 幸太郎，廣瀬 佑 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細 吉 田：病院、介護施設にて看護師として勤務経験あり

谷 口：介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり

10 特記事項

実務経験のある教員および通常教員による授業科目

回数	授業内容
1	【実習期間, 時間】 第1段階実習 1年前期 80時間(8時間×10日間)
	【実習場所】 デイサービス, 小規模多機能型居宅介護, 有料老人ホーム, 特別養護老人ホーム, 介護老人保健施設, 障害者支援施設, 救護施設等
	【実習内容】 ・各施設の理念, 介護方針, 業務内容等について理解する。 ・コミュニケーションを中心に, 利用者様とかかわり, 介護を必要とされている方のニーズについて学ぶ。 ・介護職員の社会的役割等, 求められていることを学び, 介護福祉士の業の実際を学ぶ。 ・生活支援技術の見学, 補助, 実践を体験する。 ・実習記録の作成
2	【実習期間, 時間】 第2段階実習 1年後期 176時間(8時間×22日間)
	【実習場所】 デイサービス, 小規模多機能型居宅介護, 有料老人ホーム, 特別養護老人ホーム, 介護老人保健施設, 障害者支援施設, 救護施設等
	【実習内容】 ・第1段階実習と同様 ・実習先の施設の特徴を体験的に学び, 理解することができる。 ・個々の利用者の状態, 状況に合わせた生活支援技術を体験的に学ぶ。 ・介護過程の展開において, 利用者様, 実習指導者, 職員から情報を収集し, 適切なアセスメントにつなげる。 ・介護過程の展開において, 介護職だけでなく, 他専門職からも情報, 知識を収集し, 適切なアセスメントにつなげる。 ・多職種連携の実際を学ぶ。
3	【実習期間, 時間】 第3段階実習 2年前期 200時間(8時間×25日間)
	【実習場所】 特別養護老人ホーム, 介護老人保健施設, 障害者支援施設, 救護施設等実習施設Ⅱの施設
	【実習内容】 ・各施設の理念, 介護方針, 業務内容等について理解する。 ・コミュニケーションを中心に, 利用者様とかかわり, 介護を必要とされている方のニーズについて学ぶ。 ・介護職員の社会的役割等, 求められていることを学び, 介護福祉士の業の実際を学ぶ。 ・生活支援技術の見学, 補助, 実践を体験する。 - 実習先の施設の特徴を体験的に学び, 理解することができる。 ・個々の利用者の状態, 状況に合わせた生活支援技術を体験的に学ぶ。 ・介護過程の展開において, 利用者様, 実習指導者, 職員から情報を収集し, 適切なアセスメントにつなげる。 ・介護過程の展開において, 介護職だけでなく, 他専門職からも情報, 知識を収集し, 適切なアセスメントにつなげる。 ・介護過程の展開において, 利用者のニーズに即した介護計画が立案できる。 ・多職種連携の実際を学ぶ。 ・実習記録の作成

シラバス（授業計画書）

科目名（ 障害の理解 II ）

学科名 介護福祉科

学年 2年

1 授業の内容

障害のとらえ方について、医学モデル、社会モデル、国際生活機能分類（ICF）各法律から学び、理解を深める。

2 到達目標

障害者の介護にあたる際の基本的知識を身につける。

3 授業の方法

教科書を使用し、国家試験を見据えて重要項目を重点的に講義する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%

授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業への積極性を評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業前に単元の部門をテキスト等で予習しておく。

7 使用教材，教具

配付資料，最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅲ 障害の理解 中央法規

8 学生へのメッセージ

授業への積極性を評価しますので，分からないときは質問してください。

9 教員氏名 （ 吉田 直美 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（ 病院，介護施設にて看護師としての勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 障害の理解 II ）

回数	授業内容
1	障害の基礎的理解:障害の概念 捉え方, ICIDH と ICF
2	障害の基礎的理解:障害者の定義 障害者福祉の基本理念①
3	障害の基礎的理解:障害者の定義 障害者福祉の基本理念②
4	障害の基礎的理解:障害者福祉に関連する制度 ①
5	障害の基礎的理解:障害者福祉に関連する制度 演習
6	障害者を取り巻く、連携と協働 地域のサポート体制
7	障害者を取り巻く、連携と協働 チームアプローチ
8	障害がある人の家族への支援
9	障害の基本的な理解 演習
10	連携と協働の基本的な理解家族支援の基本的な理解
11	各項目のまとめ
12	ストレスマネジメント
13	国家試験過去問題演習
14	国家試験過去問題演習
15	定期試験
16	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ ころとからだのしくみⅡ ）

学科名 介護福祉 科

学年 2年

1 授業の内容

介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習

2 到達目標

- ・介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。
- ・生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、ころとからだのしくみおよび機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。
- ・人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する。

3 授業の方法

P C プロジェクターを利用したパワーポイントによる講義である。教科書を使用し、講義内容を、国家試験を見据えて重要項目を重点的に講義する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%， 授業態度 10% 小テスト 10%

5 評価の際の特記事項

小テストも評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画表に沿って、事前に教科書の予習・復習すること。特に復習をすることで知識が定着する。授業で配付する資料は各自がファイリングすること。6月からは、国家試験対策都して補講を実施する。

7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ （中央法規出版）
介護福祉士国家試験模擬試験問題集

8 学生へのメッセージ

QOL（生活の質）を維持、向上の視点を持ち介護予防からリハビリテーション、看取りまで、介護福祉士の役割は大きい事を意識してください。対象者の状態の変化に対応できるよう知識を得て臨床に出た時に自信を持って介護が提供できる人材になってください。

国家試験に備えて苦手分野の克服、自信をもって国家試験に臨めるよう数多くの問題に挑戦しましょう。

9 教員氏名 （ 吉田 直美 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細 （ 病院、介護施設にて看護師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ こころとからだのしくみⅡ）

回数	授業内容
1	復習 こころのしくみの理解:①人間の欲求と動機②感情③認知④学習
2	復習 こころのしくみの理解:⑤知能⑥適応 【小テスト①】
3	復習 からだのしくみの理解:①血液②骨格・筋
4	復習 からだのしくみの理解:③消化器④循環器
5	復習 からだのしくみの理解:⑤呼吸器⑥泌尿器
6	復習 からだのしくみの理解:⑦内分泌⑧神経系
7	復習 からだのしくみの理解:⑨体の動き 【小テスト②】
8	復習 身じたくに関連したこころとからだのしくみ
9	復習 移動に関連したこころとからだのしくみ
10	復習 食事に関連したこころとからだのしくみ
11	復習 入浴に関連したこころとからだのしくみ
12	復習 排泄に関連したこころとからだのしくみ
13	復習 睡眠に関連したこころとからだのしくみ
14	復習 死にゆく人のこころとからだのしくみ
15	前期試験
16	答案返却と解説
17	こころとからだの分野 過去問①
18	解説①
19	国試特講①力試し 解説
20	国試特講②
21	こころとからだの分野 過去問②
22	解説②
23	こころとからだの分野 過去問③
24	解説③
25	こころとからだの分野 過去問④
26	解説④
27	こころとからだの分野 過去問⑤
28	解説⑤
29	こころとからだの分野 過去問⑥
30	解説⑥
31	後期試験
32	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（医療的ケアⅡ）

学科名 介護福祉科

学年 2年

1 授業の内容

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

2 到達目標

- ①喀痰吸引について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解する。
- ②経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解する。
- ③安全な喀痰吸引・経管栄養の実施の為、確実な手技を習得する。

3 授業の方法

○ 基本研修（講義形式・実時間で50時間以上）養成課程で行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 10% 小テスト 10%

5 評価の際の特記事項

命を預かる行為です。真面目な態度で取り組んでください。授業態度は重視します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実際の演習はできませんが、器具の名称、手順はシミュレーションが必要です。

7 使用教材、教具

最新介護福祉士養成講座 医療的ケア 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

介護保険法等一部改正法により、平成27年度以降は介護福祉士がその業務として喀痰吸引等を行うことが可能となったため、介護福祉士養成施設の養成課程においても、医療的ケア（喀痰吸引等）に関する教育を行うことが必要となりました。

厳しいですが、命を預かる行為です。真面目な態度で取り組んでください。

9 教員氏名（ 吉田 直美 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（ 介護施設にて看護師としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 医療的ケアⅡ ）

回数	授業内容
1	経管栄養(基礎的知識・実施手順) 高齢者および障害児・者の経管栄養概論
2	経管栄養(基礎的知識・実施手順) 経管栄養の種類・仕組み・栄養剤
3	経管栄養(基礎的知識・実施手順) 子供の経管栄養の留意点と感染予防
4	経管栄養(基礎的知識・実施手順) 急変・事故発生時の対応と再発防止
5	経管栄養実施手順解説
6	喀痰吸引(基礎知識・実施手順) 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論
7	喀痰吸引(基礎知識・実施手順) 呼吸の仕組みと働き・喀痰吸引
8	喀痰吸引(基礎知識・実施手順) 喀痰吸引実施手順解説
9	喀痰吸引(基礎知識・実施手順) 必要物品と消毒法 利用者の状態観察
10	喀痰吸引(基礎知識・実施手順) 利用者への説明 手順の流れ ポイントと留意点
11	救急蘇生法の実際
12	喀痰吸引のケア実施の手引き
13	経管栄養のケア実施の手引き
14	医療的分野の国家試験過去問実施・解説
15	これまでのまとめ
16	これまでのまとめ
17	定期試験
18	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 医療的ケアⅢ演習 ）

学科名 介護福祉科

学年 2年

1 授業の内容

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

2 到達目標

- ① 喀痰吸引について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解の確認とし演習を実施。
- ② 経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解の確認とし演習を実施。
- ③ 安全な喀痰吸引・経管栄養の実施の為、確実な手技を習得状況を確認する。

3 授業の方法

○ 演習 ※基本研修を修了した学生に限る。

- ・ 喀痰吸引：口腔（5回以上）、鼻腔（5回以上）、気管カニューレ内部（5回以上）
- ・ 経管栄養：胃ろう又は腸ろう（5回以上）、経鼻経管栄養（5回以上）

※併せて、救急蘇生法演習についても1回以上実施すること。

4 成績評価方法・基準

定期試験（実技試験） 90% 授業態度 10%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

追加演習を繰り返し、確実に実施できるようになること。そのため時間外の指導も行います。

7 使用教材，教具

最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ 中央法規

最新介護福祉士養成講座 医療的ケア 中央法規

8 学生へのメッセージ

介護保険法等一部改正法により、平成27年度以降は介護福祉士がその業務として喀痰吸引等を行うことが可能となったため、介護福祉士養成施設の養成課程においても、医療的ケア（喀痰吸引等）に関する教育を行うことが必要となりました。厳しいですが、命を預かる行為です。真面目な態度で取り組んでください。

9 教員氏名 （ 吉田 直美 ／ 中島 幹子 ）

所 属 （ 吉田：こころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

（ 中島：株式会社 GEN ショートステイひなみ ）

実務経験の詳細（ 吉田／中島：病院，介護施設にて看護師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある通常教員による授業科目

科目名 (医療的ケアⅢ演習)

回数	授業内容
1	演習オリエンテーション 喀痰吸引 5 回以上:経管栄養 5 回以上必須 演習①
2	喀痰吸引・経管栄養・ ②
3	喀痰吸引・経管栄養・ ③
4	喀痰吸引・経管栄養・ ④
5	喀痰吸引・経管栄養・ ⑤
6	喀痰吸引・経管栄養・ ⑥
7	喀痰吸引・経管栄養・ ⑦
8	喀痰吸引・経管栄養・ ⑧
9	喀痰吸引・経管栄養・ ⑨
10	喀痰吸引・経管栄養・ ⑩
11	喀痰吸引・経管栄養・ ⑪
12	喀痰吸引・経管栄養・ ⑫
13	喀痰吸引・経管栄養・ ⑬
14	喀痰吸引・経管栄養・ ⑭
15	喀痰吸引・経管栄養・ ⑮
16	喀痰吸引・経管栄養・ ⑯
17	喀痰吸引・経管栄養・ ⑰
18	喀痰吸引・経管栄養・ ⑱
19	喀痰吸引・経管栄養・ ⑲
20	喀痰吸引・経管栄養・ ⑳
21	喀痰吸引・経管栄養・ ㉑
22	喀痰吸引・経管栄養・ ㉒
23	喀痰吸引・経管栄養・ ㉓
24	喀痰吸引・経管栄養・ ㉔
25	喀痰吸引・経管栄養・ ㉕
26	バイタル測定 ・実施
27	救急蘇生法 急変時の対応実践 報告
28	評価オリエンテーション説明: 評価
29	評価オリエンテーション説明: 評価
30	評価オリエンテーション説明: 評価

シラバス（授業計画書）

科目名（ 整体療法学 ）

学科名 介護福祉 科

学年 2 年

1 授業の内容

解剖学や経穴学を含みながら、体へ触れることに慣れ、基礎的な手技を学ぶ。

2 到達目標

施術部位の解剖学的イメージができ、基礎的な手技と筋肉への正しいアプローチ方法を習得する。

3 授業の方法

資料や筋肉模型を使用しながらの骨・筋肉を理解する。小テストあり。
施術ペアを組み、学んだ手技を繰り返し練習する。手技チェックあり。

4 成績評価方法・基準

実技試験 50% 定期試験（筆記試験） 50%

5 評価の際の特記事項

定期試験は解剖学の筆記試験を実施。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

施術練習では筋肉名で説明するので、解剖学の理解は必須です。
手技に関しては授業外でも復習することで技術力 UP につながります。

7 使用教材，教具

参考資料や施術写真などをまとめたテキストを配布します。
骨・筋肉模型を利用するときもあります。

8 学生へのメッセージ

施術される前と後の体験をして、自分自身がそれを実践して体がほぐれる感覚や相手に喜んでもらえる嬉しさを感じ取ってほしいです。習得した技術や知識は現場でも活かせると思います。また、高齢者の方を相手にしますので常に危険と隣り合わせという意識を持って授業に臨んでください。

9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所で施術者として実務経験あり ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 整体療法学 ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	整体とは、基本手技について
3	基礎解剖学 ① 下肢へのアプローチ (1)
4	基礎解剖学 ① 下肢へのアプローチ (1)
5	下肢へのアプローチ (2)
6	下肢へのアプローチ (2)
7	下肢の復習 基礎解剖学 ①
8	下肢の復習 基礎解剖学 ②
9	腰臀部へのアプローチ (1)
10	腰臀部へのアプローチ (1)
11	腰臀部へのアプローチ (2)
12	腰臀部へのアプローチ (2)
13	腰臀部の復習 基礎解剖学 ①
14	腰臀部の復習 基礎解剖学 ②
15	腰臀部の復習 基礎解剖学 ③
16	上肢へのアプローチ (1)
17	上肢へのアプローチ (1)
18	上肢へのアプローチ (2)
19	上肢へのアプローチ (2)
20	上肢の復習
21	上肢の復習
22	高齢者の疾病とは
23	高齢者への筋力トレーニング
24	全身へのアプローチ
25	全身へのアプローチ
26	前期のまとめ
27	前期のまとめ
28	実技試験(基礎解剖学・実技)
29	実技試験(基礎解剖学・実技)
30	定期試験(筆記試験)
31	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 人間の理解 ）

学科名 介護福祉科

学年 1 年

1 授業の概要

人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。

2 到達目標

- ①「人間の尊厳」について体験や事例から、自分の意見を表現することができる。
- ②「自立」について、本人主体の観点から、自己決定、自己選択の考え方を理解し体験や事例から、自分の意見を表現することができる。

3 授業の方法

普通教室にて、教科書、配付プリント用いた講義やグループワークを中心に行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験	60%	授業態度	15%
提出物	10%	授業への貢献度	15%

5 評価の際の特記事項

授業への貢献度については、教員からの問いに対する発言、グループワークでの司会、発表などの実績を評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

「考える」ことが多い授業です。事前に教科書を読んでおいてください。

7 使用教材，教具

最新・介護福祉士養成講座 人間の理解 中央出版 配付資料

8 学生へのメッセージ

単に用語やトピックの説明を覚えるのではなく、なぜそう考えるのか、自分はそれをどう現実化したいのかを思索しながら、介護福祉の理念について理解を深めましょう。

9 教員氏名（ 谷口 幸太郎 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 人間の理解 ）

回数	授業内容
1	尊厳とは, を考える, 人間の尊厳と人権・福祉理念
2	人権や尊厳に関する日本の諸規定
3	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷1
4	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷2
5	人権尊重と権利擁護
6	自立とは 自立と自律
7	自立支援
8	尊厳の保持と自立, 自立支援の関係性
9	自立支援について考える
10	介護実践におけるチームマネジメントの意義
11	ケアを展開するためのチームマネジメント
12	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント
13	組織の目標達成のためのチームマネジメント
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 人間関係とコミュニケーション ）

介護福祉科

1年

1 授業の概要

介護職による生活支援は、利用者や他職種との関係づくりから始まります。ここでは他者との関係づくりのために必要なコミュニケーションや、介護実践におけるチームマネジメントについて学びます。

2 到達目標

コミュニケーションについて知識と理解を深め、個別・具体的なコミュニケーション技術の表出（アウトプット）を始める第1歩にする。

3 授業の方法

講義を中心とし、学習項目によって演習を取り入れる。

4 成績評価方法

前期：定期試験 90% 授業態度 10%

後期：定期試験 90% 授業態度 10%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、聴講の態度、質問への返答、グループワークでの積極性等を総合的に判断します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

世の中の流れに興味をもち、新聞に目を通したり、ニュースを見たりするようにしてください。

7 使用教材，教具

最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解

8 学生へのメッセージ

コミュニケーションは対人援助職の基本ですが、学んでみると複雑で奥深いものです。ここで学んだことを日常生活でも意識して過ごしてみてください。

9 教員氏名 （ 廣瀬 佑 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名(人間関係とコミュニケーション)

回数	授業内容
1	人間らしさのはじまり，自分と他者の理解
2	発達心理学や社会心理学からみた人間関係
3	人間関係とストレス
4	自分と他者の認識のずれ，少数派が集団を変えるために必要なこと
5	コミュニケーションの概念と基本構造
6	コミュニケーションの手段
7	非言語の種類とメッセージ
8	対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション
9	対人援助における基本的態度
10	援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則
11	傾聴とバイステックの7つの原則
12	組織の条件とコミュニケーションの特徴・組織における情報の流れ
13	組織において求められるコミュニケーション
14	組織のコミュニケーションについてーブレインストーミングー
15	前期定期試験
16	解答解説
17	ヒューマンサービスとしての介護サービス
18	介護現場で求められるチームマネジメント
19	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み
20	介護サービスと他の仕事の違い，ケアを展開する様々なチーム
21	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み， チームでケアを展開するためのマネジメント
22	チームの力を最大化するためのマネジメント
23	情報共有の場，リーダーシップ・フォロワーシップ
24	介護福祉職のキャリアと求められる実践力
25	介護福祉職としてのキャリアデザイン
26	介護福祉職のキャリア支援・開発
27	介護福祉士としてのキャリアのイメージ・スーパービジョンの機能
28	介護サービスを支える組織の構造・昨日・役割
29	介護サービスを支える組織の管理
30	組織の理念・委員会
31	後期定期試験
32	解答解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 社会と制度の理解Ⅰ ）

学科名 介護福祉科

学年 1年

1 授業の概要

本授業では、日常にある福祉の内容を理解し、その制度がどのような歴史的背景の中に誕生し変化してきたのか、また、私たちの生活とどのように結びついているのか、ということについて理解を深める。担当教員の実務経験を基に、実際のサービス・制度利用者の事例を参考にしつつ、社会保障や各福祉に関する諸制度の内容・仕組みなどを学びながら福祉の諸制度についての基礎的知識を習得する。

2 到達目標

- ① 生活の中にある福祉をライフステージごとに学ぶ事により、理解することができる。
- ② 社会保障の役割と意義、制度の歴史的背景など制度全体の内容を理解し、相談業務など介護を実践するうえで必要な知識を習得することができる。
- ③ 介護保険制度の創設目的や運用について理解することにより、介護実践の基礎を身につけることができる。

3 授業の方法

教科書、その他の資料を用いながら、講義形式で進めていく。

4 成績評価方法・基準

定期試験	60%
レポート	20%
授業態度	20%

5 評価の際の特記事項

定期試験及びレポートの提出、受講姿勢をもとに評価を行います。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書には多くの知識が書かれています。授業前後にしっかりと読み込んでください。

7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座 社会の理解 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

分かりやすいように授業を進めていきますので、しっかり授業に参加してください。また、分からない点があれば、積極的に確認してください。

- 9 教員氏名 （ 山崎 紘史 ）
所 属 （ 社会福祉法人 実寿穂会 ）
実務経験の詳細 （ 介護施設にて社会福祉士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 社会と制度の理解Ⅰ ）

回数	授業内容
1	第1章 私たちの生活と社会福祉 第1節 生活とは
2	第1章 私たちの生活と社会福祉 第2節 家族とは
3	第1章 私たちの生活と社会福祉 第3節 地域社会と個人
4	第1章 私たちの生活と社会福祉 第4節 人と社会・組織
5	第1章 私たちの生活と社会福祉 第5節 現代におけるライフスタイルの変化
6	第1章 私たちの生活と社会福祉 第6節 生活の支援と福祉の体系
7	第2章 社会保障のしくみ 第1節 社会保障の基本的な考え方
8	第2章 社会保障のしくみ 第2節 日本の社会保障制度の発達
9	第2章 社会保障のしくみ 第3節 日本の社会保障制度のしくみ①
10	第2章 社会保障のしくみ 第3節 日本の社会保障制度のしくみ②
11	第2章 社会保障のしくみ 第4節 現代社会と社会保障の制度
12	第3章 介護保険制度 第1節 介護保険制度創設の目的
13	第3章 介護保険制度 第2節 介護保険制度のしくみ
14	講義振り返り・ポイント復讐・レポート
15	定期試験
16	解答返却及び解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 国語表現 ）

学科名 介護福祉 科
学年 1 年

- 1 授業の内容
国語で適切かつ効果的に表現する能力「話す、聞く、書く、読む」を学習し、思考力や想像力を伸ばし、進んで表現することによって、国語力の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
- 2 到達目標
 - ・「話す、聞く、書く、読む」といった、社会で通じる実践的な国語力・表現力を身に着ける。
 - ・ことばの特性や機能を理解し、挨拶や敬語を表現できる。
 - ・日本語の表記方法を理解し、正しく文章を書き表すことができる。
 - ・国家試験問題を読み解くことができる。
- 3 授業の方法
実際に文章などを書いてみる演習を中心とする。
- 4 成績評価方法・基準
小論文 40% 提出物 20% 授業態度 20% 小テスト 20%
- 5 評価の際の特記事項
小論文は、内容、文章力、文章構成力、語彙力、表記方法、誤字脱字の有無などを総合的に評価します。
- 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
本や新聞を読む。文章を書く。
- 7 使用教材，教具
筆記用具（えんぴつ、消しゴム） 配付資料
- 8 学生へのメッセージ
実習ではレポートを適切に書くことが求められますし、就職後は現場の記録作成に携わります。文章表現の基礎をマスターしましょう。
また、国家試験問題を解くためには、読解力を始めとした総合的な国語力が求められます。問題を読み解く力を身につけましょう。
- 9 教員氏名（ 廣瀬 佑 ）
所 属（ こころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）
- 10 特記事項
通常教員による授業科目

科目名 (国語表現)

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	言葉に変える(正確に書き写す, メモを取る, 絵を言葉にする)
3	人とつながる言葉(挨拶, 敬語表現, ことばの可能性と危険性)
4	文章表現の基礎(表記の仕方, 語句の用法と文の区切り方)
5	文章の型-構成の方法-, 文章のリフォーム
6	効果的な説明の方法
7	言葉を遊ぶ(言葉あそびを楽しむ, 川柳・俳句・短歌をつくる)
8	レポートの書き方(総論)
9	レポートの書き方(基本・応用)
10	「自由テーマ」小論文 作成
11	「自由テーマ」小論文 作成・提出
12	自己分析・自己 PR 作成
13	読解力(国家試験問題を用いて)
14	読解力(国家試験問題を用いて)
15	メディアリテラシー

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護の基本 I ）

学科名 介護福祉科

学年 1 年

1 授業の内容

「介護」の歴史を学び、現在の介護を取り巻く環境を相対的に理解する。また、「尊厳の保持」や「自立支援」など介護の考え方を学習し、介護福祉士の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる役割、介護観について学びを深めていく。

2 到達目標

- ①「尊厳とは何か」「自立支援とは何か」介護福祉の基本となる理念を理解し、どのような介護が求められるかを述べることができる。
- ②「介護福祉士」の定義や、義務規定、職業倫理について理解し、介護実践の場で介護福祉士が果たすべき役割や態度、能力について考えを具体的に述べることができる。

3 授業の方法

普通教室にて、座学及びグループワーク

4 成績評価方法・基準

定期試験 60% レポート・提出物 20% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業内にて提示する事前課題への取り組み姿勢やグループワークへの貢献度なども考慮します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の振り返りを国家試験問題と照らし合わせて、理解していきましょう。

7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

介護福祉の基本理念を理解し、介護福祉の専門職として能力と態度を養いましょう。

9 教員氏名 （ 廣瀬 佑 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 介護の基本Ⅰ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	介護とは何か
4	介護福祉とは「介護の成り立ち」
5	介護福祉とは「介護の概念の変遷①」
6	介護福祉とは「介護の概念と変遷②」
7	介護福祉とは「介護の概念と変遷③」
8	介護福祉の基本理念「尊厳を支える介護」
9	介護福祉の基本理念「自立を支える介護」
10	介護福祉士の法的理解と機能・役割
11	社会福祉士及び介護福祉士法「義務規定」について
12	「求められる介護福祉士像」の理解
13	「求められる介護福祉士像」について考える
14	介護福祉士を支える団体について
15	前期定期試験
16	答案返却および解説
17	倫理とは 職業倫理と生命倫理
18	介護福祉士がもつべき倫理とは
19	介護福祉士の倫理 「普遍的倫理判断」
20	介護福祉士の倫理 事例からの検討
21	日本介護福祉士会倫理綱領について
22	自立支援の考え方
23	自立支援とICF の理解
24	リハビリテーションとは
25	リハビリテーションの専門職について
26	リハビリテーションにおける介護福祉士の役割について
27	介護予防の意義と目的
28	介護予防の実際
29	介護福祉士の活躍の場と役割①
30	介護福祉士の活躍の場と役割②
31	後期定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ コミュニケーション技術 ）

学科名 介護福祉科

学年 1年

1 授業の概要

対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。

2 到達目標

- ①対象者のコミュニケーションの状態を、ICF 基づいてアセスメントできる。
- ②個々の介護場面に応じたコミュニケーション技術を習得し、実践することができる。
- ③チームにおけるコミュニケーションとして、記録、報告、連絡、相談、会議、情報管理などにおける技法を実践できる。

3 授業の方法

普通教室にて、教科書、配付プリント用いた講義やグループワークを中心に行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験	60%	提出物・レポート	10%
授業態度	15%	授業への貢献度	15%

5 評価の際の特記事項

授業への貢献度については、教員からの問いに対する発言、グループワークでの司会、発表などの実績を評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業では教科書以外の事例、演習も用いることがあります。事前に教科書の演習に目を通し、自分なりの答えを導き出してください。

7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座 コミュニケーション技術 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

コミュニケーション技術は介護福祉士の専門性の中核を成しています。「実践できる」レベルで修得できるよう、授業に取り組んでください。

9 教員氏名 （ 谷口 幸太郎 ）

所 属 （ こころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細 （ 介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（コミュニケーション技術 ）

回数	授業内容
1	コミュニケーションとは 演習
2	介護におけるコミュニケーションとは
3	介護におけるコミュニケーションの対象
4	援助関係とコミュニケーション
5	コミュニケーション態度に関する基本技術
6	自己覚知とは 演習
7	言語・非言語・準言語コミュニケーション
8	感情をあらわす言葉 演習
9	目的別のコミュニケーション
10	リフレーミングのトレーニング
11	集団におけるコミュニケーション技術
12	回想法 思い出話をしてみよう 演習
13	傾聴 演習
14	前期のまとめ
15	前期定期試験
16	答案返却と解説
17	コミュニケーション障害への対応の基本
18	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 視覚・聴覚障害
19	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 構音障害 演習
20	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 失語症
21	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 認知症
22	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 うつ病, 統合失調症
23	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 知的障害, 発達障害
24	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 高次脳機能障害, 重症心身障害
25	家族とのコミュニケーション, 関係づくり,
26	家族への助言, 指導, 調整, ストレスへの対応
27	チームのコミュニケーションとは, 報告・連絡・相談の技術
28	記録の技術
29	会議・議事進行・説明の技術, 事例検討に関する技術, 情報の活用と管理のための技術
30	後期まとめ
31	後期定期試験
32	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生活支援技術 A ）

学科名 介護福祉科

学年 1 年

1 授業の内容

介護サービスを提供するあらゆる場面で汎用できる基本的な介護の技術を理解する。尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識や技術や知識を取得する学習とする。

2 到達目標

基本的な生活支援の理解に関する知識と具体的な支援方法を学ぶとともに、様々な生活場面において自立支援の観点から根拠に基づいた介護実践ができる。

3 授業の方法

普通教室にて講義，介護実習室にて実技の授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験（筆記） 40% （実技） 40% 授業・演習態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度やグループワークでの役割などを考慮します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業内でおこなった学習を自宅でも振り返り，繰り返し練習することで身体に身につけるようにしてください。また，国家試験に出題される語句については教科書にマーカーをつけ覚えるようにします。

7 使用教材，教具

最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ 中央法規出版

最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

授業内でも声をしっかり出していきましょう。

9 教員氏名（ 谷口 幸太郎／井手口 弘明 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

経 験（ 介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 生活支援技術 A ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 生活支援の理解
2	オリエンテーション 身だしなみ, 感染予防
3	ボディメカニクス
4	ボディメカニクス
5	自立に向けた移動の介護 車椅子
6	自立に向けた移動の介護 車椅子
7	自立に向けた移動の介護 杖歩行・歩行器
8	自立に向けた移動の介護 杖歩行・歩行器
9	自立に向けた身支度の介護 整容
10	自立に向けた身支度の介護 整容
11	自立に向けた身支度の介護 着脱介助
12	自立に向けた身支度の介護 着脱介助
13	自立に向けた食事の介護
14	自立に向けた食事の介護
15	自立に向けた食事の介護
16	自立に向けた食事の介護
17	自立に向けた身支度の介護 口腔ケア
18	自立に向けた身支度の介護 口腔ケア
19	休息・睡眠の介護 特殊寝台の機能, 基本操作
20	休息・睡眠の介護 ベットメイキング
21	休息・睡眠の介護 ベットメイキング
22	休息・睡眠の介護 ベットメイキング
23	自立に向けた移乗の介護
24	自立に向けた移乗の介護
25	自立に向けた移乗の介護
26	自立に向けた移乗の介護
27	介護技術試験・解説
28	介護技術試験・解説
29	振り返り・まとめ
30	定期試験
31	答案返却および解答解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生活支援技術C ）

学科名 介護福祉科

学年 1年

1 授業の概要

私たちが意識しないままに、何気なく過ごしている「生活」とは何かを理解し、その「生活」を支えるために何が必要なのかを居住環境の整備の観点から把握する。

2 到達目標

生活を支援するためにはさまざまな視点・アプローチがあることを学ぶことで、多様性のある利用者の生活を支援するために欠かせない柔軟な思考を育んでほしい。

3 授業の方法

普通教室にて座学，およびグループワーク

4 成績評価方法

定期試験 70% 授業態度 30%

5 評価の際の特記事項

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

新聞に目を通したり，ニュースを見たりする。

7 教科書・参考図書

最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術 I

8 学生へのメッセージ

提示された課題（居住環境に関する課題）に対し，自学やグループワークなどを行うことにより，課題解決のプロセスを考察して自分の考えをアウトプットできるようになろう。

9 教員名 （ 貞松 徹 ）

所属 （ 社会福祉法人ながよ光彩会 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名(生活支援技術C)

回数	授業内容
1	人が安心して快適に暮らすために必要な環境の整備とは何か, その意義と必要性について理解する。
2	高齢者や障害のある人の住まいの多様性について学ぶ。
3	生活の場の考え方を理解する。
4	住まいに関連した環境問題について学ぶ。
5	国際生活分類(ICF)と居住環境整備におけるアセスメントの視点を学ぶ。
6	住まいにおける安心・快適な室内環境の確保について学ぶ。
7	集団生活の場においても「利用者のこれまでの暮らし」を継続させるための視点, 環境整備の工夫を学ぶ。
8	住居環境の整備にかかわる職種とその役割について学ぶ。
9	事例からチームケアのあり方を具体的に学ぶ。
10	定期試験
11	答案返却・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生活支援技術C ）

学科名 介護福祉科

学年 1年

1 授業の概要

- (1) 健康で快適な被服生活を営む上で必要な、被服の役割・機能・選択・管理について学ぶ。
- (2) 高齢者・障害者に適した被服を学ぶ。
- (3) 自立に向けた身支度の介護技術について学ぶ。

2 到達目標

家事介助の意義及び目的を理解し、適切な家事介助のために必要な被服に関する基礎的知識、及び技術を習得する。

3 授業の方法

テキストを中心としながら理論と実技を学習する。衣服や繊維の観察、実験なども取り入れながら知識を深める。

4 成績評価方法

定期試験 50% 提出物 40%（レポート 10%，製作品 30%）
授業態度 10%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、実技の積極性も重視します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

予習として、指示したテキストのページを読んでおいてください。授業後は、授業内で取り上げたキーワードについて、配付資料を読み返して復習してください。

7 使用教材，教具

最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術 I

8 学生へのメッセージ

被服に関心を持ち、学んだことを実践及び体験することにより理解が深まります。

9 教員名 （ 砂崎 素子 ）

所 属 （ 長崎大学教育学部 非常勤講師 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名(生活支援技術C)

回数	授業内容
1	被服の役割と機能, 色の効果
2	被服の役割と機能, 色の効果
3	被服の品質表示ラベルの見方
4	組成表示, サイズ表示、取扱絵表示など
5	被服の素材(繊維)の種類と特徴
6	被服の素材(繊維)の種類と特徴
7	高齢者の被服(体型と動作に合わせた素材とデザイン)
8	障害者の被服(体型と動作に合わせた素材とデザイン)
9	繊維に付着する汚れの種類と洗濯
10	繊維に付着する汚れの種類と洗濯
11	繊維品の手入れ(漂白・シミぬき・アイロン)と保管(防虫剤・除湿剤)の仕方
12	繊維品の手入れ(漂白・シミぬき・アイロン)と保管(防虫剤・除湿剤)の仕方
13	被服基礎実習①基礎縫い, ボタン付け, 衣類の修繕
14	被服基礎実習①基礎縫い, ボタン付け, 衣類の修繕
15	被服基礎実習②フレーム織り機によるコースター作製
16	被服基礎実習②フレーム織り機によるコースター作製
17	被服生活(季節に合わせた快適な着用の工夫)
18	被服生活(季節に合わせた快適な着用の工夫)
19	まとめ
20	定期試験
21	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生活支援技術 E ）

学科名 介護福祉 科

学年 1年

1 授業の内容

宮崎：視覚障がい者の最も有効なコミュニケーション手段のひとつである点字の読み書きを学び、障がい者への理解を深める。

平：視覚障害について学習する。

聴覚障害者及び重複障害者とのコミュニケーション方法を学習する。

2 到達目標

宮崎：簡単なお知らせ文の読み書きができる。

平：視覚障害への理解を深める。

手話で自己紹介ができるようになる。

3 授業の方法

宮崎：点字のルールや書き方、読み方を説明し、演習を行う。

平：視覚障害に関する講義、手話実技（一人ずつ発表）

4 成績評価方法・基準

宮崎：定期試験 80% 宿題・出席等 20%

平：定期試験 80% 授業態度 20%

※点字と手話、それぞれの成績の合計を2で割ったものを最終成績とする。

5 評価の際の特記事項

平：授業中真面目な態度で取り組んでいるかを見ます。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

宮崎：毎授業ごとに読み方、あるいは書き方の宿題を出す。

平：テキスト、配布プリント等での予習・復習をする。

手話実技は特に繰り返して覚える必要がある。

7 使用教材，教具

宮崎：初めての点訳（第3版）、携帯用点字器、点筆、用紙

平：今すぐはじめる手話テキスト 聴さんと遊ぼう！

一般財団法人全日本ろうあ連盟

8 学生へのメッセージ

宮崎：街中や身のまわりにある点字サインを読めるようになろう！！

平：聴覚障害者が社会でどのような不便を感じているかを知り、自分が習得したコミュニケーション方法で支援ができるように努力してほしい。

9 教員氏名 (宮崎 深幸, 平 恵里子)
 所 属 宮崎 : 長崎県視覚障がい者情報センター点訳者養成講座
 平 : 一般社団法人 長崎県ろうあ協会
 実務経験の詳細 平 : NPO 法人にて手話通訳者として勤務経験あり

10 特記事項
 実務経験のある教員による授業科目

科目名 (生活支援技術 E)

回数	授業内容
1	点字について(歴史・概要・点字器の使い方)、50 音の書き方・読み方 : 長渡
2	語の書き方・読み方について、演習 : 宮崎
3	仮名づかいの表し方・読み練習、演習 : 宮崎
4	数字の書き方、演習 : 宮崎
5	文節分かち書きについて、演習 宮崎
6	文節分かち書き(複合語)について、演習 : 宮崎
7	おしらせ文あるいは案内文を書く、演習 : 宮崎
8	定期試験
9	答案返却と解説
10	オリエンテーション・講義・聴覚障害(聞こえない)とは? 実技 あいさつ、学校名 : 平
11	講義 手話のなりたち 実技 名前 : 平
12	講義 コミュニケーション方法 実技 家族 : 平
13	講義 聴覚障害者の生活(家庭・地域) 実技 数字 : 平
14	講義 聴覚障害者の生活(学校・職場) 実技 住所 : 平
15	講義 聴覚障害者の生活(盲ろう者) 実技 趣味・仕事 : 平
16	定期試験
17	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護過程Ⅰ ）

学科名 介護福祉科

学 年 1 年

1 授業の内容

利用者本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を修得する学習とする。

2 到達目標

①各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護過程の意義・目的を理解し、自分の言葉で説明できる。

②介護実践に必要な観察力・判断力およびPDCAなどの思考課程を理解する。

③利用者の望む生活の実現のために必要な情報（アセスメント）とは何かを、主体となって考えることができる。

3 授業の方法

普通教室にて、教科書、配付プリント用いた講義や事例検討（演習）、およびグループワークを中心に行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験	60%	提出物	15%
授業態度	10%	授業への貢献度	15%

5 評価の際の特記事項

授業への貢献度については、教員からの問いに対する発言、グループワークでの司会、発表などの実績を評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

出された課題には必ず取り組んでから、授業にのぞんでください。

7 使用教材・教具

最新・介護福祉士養成講座 「介護過程」 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

「利用者を知ること」の大切さ、アセスメントの重要性への理解を深めていきましょう。日頃から、自己・他者に対し関心を持つことと、想像力が大切です。

9 教員氏名（ 谷口 幸太郎 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

経 験（ 介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 介護過程Ⅰ ）

回数	授業内容
1	介護過程とは(意義, 目的, 展開のプロセスについて), 生活を理解しよう
2	介護過程の全体像, 展開の理解, 介護過程のプロセス確認
3	介護過程と ICF
4	演習 1-2 生活支援における介護過程の必要性
5	アセスメントの思考の方法と視点
6	介護過程の展開, アセスメント(情報収集)について
7	セルフアセスメント
8	セルフアセスメント(提出)
9	セルフアセスメント返却・解説, アセスメント(解釈・関連づけ・統合化)
10	アセスメント(解釈・関連づけ・統合化)
11	情報の解釈, 関連づけ, 統合化, 課題の明確化の実際(教科書の事例を用いて)
12	課題の明確化の実際(教科書の事例を用いて)
13	国家試験問題を用いて「介護過程」を理解する, 国家試験問題解説
14	前期まとめ
15	定期試験
16	答案返却と解説
17	介護過程とは, 介護過程のプロセスについて(復習)
18	介護計画の立案について, 目標とは
19	具体的な支援内容, 支援方法の決定
20	実施について(実施の際の留意点, 実施状況の把握, 実施の記録)
21	評価の意義と目的, 評価の方法, 評価の際の留意点
22	クラスメイトのアセスメントをとってみよう①
23	クラスメイトのアセスメントをとってみよう②(提出)
24	講評
25	事例を用いた課題の明確化の実施
26	事例を用いた課題の明確化の実施(提出)
27	解説
28	事例を用いた課題の明確化の実施
29	事例を用いた課題の明確化の実施(提出)
30	解説, 後期まとめ
31	定期試験
32	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護総合演習Ⅰ ）

学科名 介護福祉科

学年 1年

1 授業の内容

介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習をする。

2 到達目標

①実習の教育効果を上げる為に、事前に実習施設についての理解を深めると共に、各領域で学んだ知識と技術を統合し介護実践につなげることができる。

②実習を振り返り、専門職としての態度を養う事ができる。

- ・介護実習の必要性とその意義を理解することができる。
- ・挨拶、礼儀、マナーを身につけることができる。
- ・利用者理解、情報収集、分析等の情報処理が適切にでき、介護過程へと展開することができる。
- ・見る、聞く、話す、書く、察する、まとめる力を身に付けることができる。

3 授業の方法

過去の事例を多く活用し、実習の意義、目標、記録を理解、記載ができるように練習する。

4 成績評価方法・基準

レポート 40% 授業態度 20% 提出物 20% 実習報告会 20%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前学習：実習施設の概要、目標、個人票は、自宅で考案し教員に許可を得る。

7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習（中央法規出版）

8 学生へのメッセージ

介護実習の意義を理解し、実習前、実習中、実習後に必要な学習内容を一つひとつ確認していきましょう。
他の科目との関連性、学校での学びと実習との関連性について理解していきましょう。

9 教員氏名（ 谷口 幸太郎 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

経 験（ 介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (介護総合演習 I)

回数	授業内容
1	オリエンテーション (介護総合演習とは, 介護実習とは, 実習報告会について)
2	介護実習の意義と目的
3	介護実習の主な流れ(実習前, 実習前, 実習後)
4	実習報告会参加
5	介護実習の種類, 施設種別の理解
6	介護実習の種類, 施設種別の理解
7	実習先の選定
8	実習先の決定, 個人票, 誓約書の作成
9	実習目標の作成
10	実習目標の作成
11	実習目標の作成, 事前訪問の依頼方法(電話のかけ方)
12	事前訪問の方法
13	実習記録のまとめ方
14	実習記録のまとめ方
15	実習記録のまとめ方
16	演習 5-5(あいさつは関係づくりの第一歩)
17	演習 5-6(利用者とのコミュニケーション場面)
18	実習の振り返り(実習記録の指導者コメントを参考に)
19	実習の報告会の準備
20	実習報告会
21	演習 5-7(職員とのコミュニケーション)
22	演習 5-9, 5-10(食事, 整容場面における介護技術の展開)
23	演習 5-11(入浴場面における介護技術の展開)
24	演習 5-13(認知症の人への介護技術の展開)
25	実習先の選定
26	実習先決定, 誓約書, 個人票の作成
27	実習目標の作成
28	アセスメントのとり方
29	アセスメントの記載方法
30	アセスメントの記載方法

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護実習 ）

学科名 介護福祉科

学年 1年

1 授業の概要

福祉施設にて10日間（第1段階）と22日間（第2段階）の介護実習を行う。

利用者様とかかわり、介護を必要とする方のニーズについて理解を深め、介護福祉士の仕事について学ぶ。

2 到達目標

- ・コミュニケーションを中心に、利用者様とかかわり、利用者様の暮らしの場を理解できる。
- ・介護福祉サービス利用者のニーズに対する介護の機能、介護職員の一般的な役割について理解できる。
- ・日常生活援助の実際を見学し、個々に応じた介護技術の実際について学ぶことができる。
- ・自立支援、尊厳を支えるケアの実際を学ぶことができる。

3 授業の方法

実習受入を契約している施設、事業所の住所地、実習受入可能人数等から配属先を検討し、1～3名程度配属する。実習中は、各施設の実習指導者や職員からの指導を随時受けながら、利用者様とコミュニケーションを図ったり、生活支援技術の見学、補助、実践と段階を踏みながら、学びを深める。

4 成績評価方法・基準

実習評価表 70% 実習記録 10% 巡回指導時の学習態度 20%

5 評価の際の特記事項

体調管理も含む

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各科目の教科書、実習の手引き、実習施設の資料など熟読すること。可能な限り、自主的にボランティア活動に参加するなど、介護を必要とする方への理解を深める。

7 使用教材、教具

新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・実習 中央法規

8 学生へのメッセージ

学校では学べないことを学べるのが、介護実習です。介護実習は、学生自身が作り上げていくものです。学ばせていただけることに感謝をし、自分自身が何を学びたいのか明確にした上で、積極的に取り組みましょう。

9 教員氏名 （ 吉田 直美，谷口 幸太郎，廣瀬 佑 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細 吉 田：病院、介護施設にて看護師として勤務経験あり

谷 口：介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり

10 特記事項

実務経験のある教員および通常教員による授業科目

科目名（ 介護実習 ）

回数	授業内容
1	介護実習Ⅰ① 【実習期間, 時間】 1年前期 80時間(8時間×10日間)
	【実習場所】 デイサービス, 小規模多機能型居宅介護, 有料老人ホーム, 特別養護老人ホーム, 介護老人保健施設, 障害者支援施設, 救護施設等
	【実習内容】 ・各施設の理念, 介護方針, 業務内容等について理解する。 ・コミュニケーションを中心に, 利用者様とかかわり, 介護を必要とされている方のニーズについて学ぶ。 ・介護職員の社会的役割等, 求められていることを学び, 介護福祉士の業の実際を学ぶ。 ・生活支援技術の見学, 補助, 実践を体験する。 ・実習記録の作成
2	介護実習Ⅰ② 【実習期間, 時間】 1年後期 176時間(8時間×22日間)
	【実習場所】 デイサービス, 小規模多機能型居宅介護, 有料老人ホーム, 特別養護老人ホーム, 介護老人保健施設, 障害者支援施設, 救護施設等
	【実習内容】 ・介護実習Ⅰ①と同様 ・実習先の施設の特徴を体験的に学び, 理解することができる。 ・個々の利用者の状態, 状況に合わせた生活支援技術を体験的に学ぶ。 ・介護過程の展開において, 利用者様, 実習指導者, 職員から情報を収集し, 適切なアセスメントにつなげる。 ・介護過程の展開において, 介護職だけでなく, 他専門職からも情報, 知識を収集し, 適切なアセスメントにつなげる。 ・多職種連携の実際を学ぶ。

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護実習 ）

学科名 介護福祉科

学年 1, 2年

1 授業の概要

福祉施設にて1年次に10日間(第1段階)、22日間(第2段階)の実習を、2年次に25日間（第3段階）の介護実習を行う。

利用者様とかかわり、介護を必要とする方のニーズについて理解を深め、介護福祉士の仕事について学ぶ。

2 到達目標

- ・コミュニケーションを中心に、利用者様とかかわり、利用者様の暮らしの場を理解できる。
- ・介護福祉サービス利用者のニーズに対する介護の機能、介護職員の一般的な役割について理解できる。
- ・日常生活援助の実際を見学し、個々に応じた介護技術の実際について学ぶことができる。
- ・自立支援、尊厳を支えるケアの実際を学ぶことができる。
- ・第3段階実習では、介護過程の展開（アセスメント、計画の立案、実施、評価）を体験的に学び、理解することができる。

3 授業の方法

実習受入を契約している施設、事業所の住所地、実習受入可能人数等から配属先を検討し、1～3名程度配属する。実習中は、各施設の実習指導者や職員からの指導を随時受けながら、利用者様とコミュニケーションを図ったり、生活支援技術の見学、補助、実践と段階を踏みながら、学びを深める。第3段階実習では、担当利用者様の情報を収集し、課題を抽出、その方に適した援助計画を立案し、実施、評価を行う。

4 成績評価方法・基準

実習評価表 70% 巡回指導時の学習態度 20% 実習記録 10%

5 評価の際の特記事項 体調管理も含む

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各科目の教科書、実習の手引き、実習施設の資料など熟読すること。可能な限り、自主的にボランティア活動に参加するなど、介護を必要とする方への理解を深める。

7 使用教材、教具 最新 介護福祉士養成講座 介護総合演習・実習 中央法規

8 学生へのメッセージ

学校では学べないことを学べるのが、介護実習です。介護実習は、学生自身が作り上げていくものです。

学ばせていただけることに感謝をし、自分自身が何を学びたいのか明確にした上で、積極的に取り組みましょう。

9 教員氏名 (吉田 直美, 谷口 幸太郎, 廣瀬 佑)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 介護福祉科)

実務経験の詳細 吉 田：病院、介護施設にて看護師として勤務経験あり

谷 口：介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり

10 特記事項

実務経験のある教員および通常教員による授業科目

回数	授業内容
1	【実習期間, 時間】 第1段階実習 1年前期 80時間(8時間×10日間)
	【実習場所】 デイサービス, 小規模多機能型居宅介護, 有料老人ホーム, 特別養護老人ホーム, 介護老人保健施設, 障害者支援施設, 救護施設等
	【実習内容】 ・各施設の理念, 介護方針, 業務内容等について理解する。 ・コミュニケーションを中心に, 利用者様とかかわり, 介護を必要とされている方のニーズについて学ぶ。 ・介護職員の社会的役割等, 求められていることを学び, 介護福祉士の業の実際を学ぶ。 ・生活支援技術の見学, 補助, 実践を体験する。 ・実習記録の作成
2	【実習期間, 時間】 第2段階実習 1年後期 176時間(8時間×22日間)
	【実習場所】 デイサービス, 小規模多機能型居宅介護, 有料老人ホーム, 特別養護老人ホーム, 介護老人保健施設, 障害者支援施設, 救護施設等
	【実習内容】 ・第1段階実習と同様 ・実習先の施設の特徴を体験的に学び, 理解することができる。 ・個々の利用者の状態, 状況に合わせた生活支援技術を体験的に学ぶ。 ・介護過程の展開において, 利用者様, 実習指導者, 職員から情報を収集し, 適切なアセスメントにつなげる。 ・介護過程の展開において, 介護職だけでなく, 他専門職からも情報, 知識を収集し, 適切なアセスメントにつなげる。 ・多職種連携の実際を学ぶ。
3	【実習期間, 時間】 第3段階実習 2年前期 200時間(8時間×25日間)
	【実習場所】 特別養護老人ホーム, 介護老人保健施設, 障害者支援施設, 救護施設等実習施設Ⅱの施設
	【実習内容】 ・各施設の理念, 介護方針, 業務内容等について理解する。 ・コミュニケーションを中心に, 利用者様とかかわり, 介護を必要とされている方のニーズについて学ぶ。 ・介護職員の社会的役割等, 求められていることを学び, 介護福祉士の業の実際を学ぶ。 ・生活支援技術の見学, 補助, 実践を体験する。 - 実習先の施設の特徴を体験的に学び, 理解することができる。 ・個々の利用者の状態, 状況に合わせた生活支援技術を体験的に学ぶ。 ・介護過程の展開において, 利用者様, 実習指導者, 職員から情報を収集し, 適切なアセスメントにつなげる。 ・介護過程の展開において, 介護職だけでなく, 他専門職からも情報, 知識を収集し, 適切なアセスメントにつなげる。 ・介護過程の展開において, 利用者のニーズに即した介護計画が立案できる。 ・多職種連携の実際を学ぶ。 ・実習記録の作成

シラバス（授業計画書）

科目名（発達と老化の理解）

学科名 介護福祉科

学年 1年

1 授業の内容

老化が与える心理的な影響を理解し、高齢者の精神疾患を中心にその治療的ケアを、一部事例を交えて学ぶ。

2 到達目標

老化の心理的影響とそれによる精神疾患、治療的ケアを中心に基礎的な用語を理解・習得していく。介護福祉士国家試験を想定し、苦手分野を克服する。

3 授業の方法

P C プロジェクターを利用したパワーポイントによる講義の他国家試験問題の頻出問題を重点的に実施する。

4 成績評価方法・基準

定期テスト 90 % 授業態度 10 %

5 評価の際の特記事項

授業態度は総合点に影響があります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

特にこの教科は、国試でも8問出ます。小テストでも何回も繰り返しワークノートを作りましょう。

7 使用教材，教具

発達と老化の理解（最新・介護福祉士養成講座 11）中央法規出版

8 学生へのメッセージ

配布資料は疾患別や心理学者別等こまめにファイリングしてください。

9 教員氏名 （ 吉田 直美 ）

所 属 （ こころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細 （ 病院，介護施設にて看護師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 発達と老化の理解 ）

回数	授業内容
1	老化とは(老化と老年期 老化学説 老性自覚)
2	老化とは(老いから加齢へ ストレス ストレス関連疾患 エイジズム)
3	老年期の発達課題 留意点 (老年期の人格 老年期のセクシャリティ)
4	老年期の発達課題 留意点(サクセスフルエイジング)
5	老化が及ぼす心理的影響(老化による心理や行動を理解するための視点)
6	老化が及ぼす心理的影響(老化による身体的機能の変化)
7	老いの価値観・受容①主観的幸福感
8	老いの価値観・受容②老年期の適応課題とパーソナリティー
9	高齢者の心の問題と精神障害 ①認知症
10	高齢者の心の問題と精神障害 ②認知症
11	高齢者の心の問題と精神障害 ①気分障害
12	高齢者の心の問題と精神障害 ②統合失調症
13	高齢者の心の問題と精神障害 ①せん妄・幻覚・妄想・心気状態
14	高齢者の心の問題と精神障害 ②せん妄・幻覚・妄想・心気状態
15	前期定期試験
16	答案返却と解説
17	老化に伴うからだの変化と日常生活
18	老化に伴うからだの変化と日常生活
19	老化に伴うからだの変化と日常生活
20	老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響①記憶機能の変化
21	老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響②認知機能の変化
22	高齢者と健康 ①症状と疾患の特徴
23	高齢者と健康 ②
24	高齢者と健康 ③
25	高齢者と健康 ④
26	高齢者と健康 ①症状・訴えの留意点
27	高齢者と健康 ②
28	高齢者と健康①高齢者に多い病気とその留意点
29	高齢者と健康②高齢者に多い病気とその留意点
30	高齢者と健康③高齢者に多い病気とその留意点
31	後期定期試験
32	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 認知症の理解 ）

学科名 介護福祉科

学年 1年

1 授業の内容

認知症の人の心理や身体機能，社会的側面に関する基礎的な知識を習得すると共に，認知症の人を中心に捉え，本人や家族，地域の力をいかした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。講義とグループワーク中心に学習する。

2 到達目標

- ①知症ケアの歴史や理念を含む，認知症を取り巻く社会的環境について理解する内容とする。
- ②学的・心理的側面から，認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し，生活支援を行うための根拠となる知識を理解する内容とする。
- ③知症の人の生活および家族や社会との関わりへの影響を理解し，その人の特性を踏まえたアセスメントを行い，本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につながる内容とする。
- ④認知症の人を支える家族の課題について理解し，家族の受容段階や介護力に応じた支援につながる内容とする。

3 授業の方法

P C プロジェクターを利用したパワーポイントによる講義である。教科書と認知症ケア指導管理士の教科書を使用し，講義内容は国家試験を見据えて重要項目を重点的に講義する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%，授業態度 10%，小テスト 10%

5 評価の際の特記事項

授業態度は，質問の返答，グループワークでの積極性等を総合的に判断します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画表に沿って，事前に教科書の予習・復習すること。特に復習をすることで知識が定着する。授業で配付する資料は各自がファイリングすること。

7 使用教材，教具

最新・介護福祉士養成講座 認知症の理解 中央法規出版

認知症ケア指導管理士試験的テキスト 改訂版 一般社団法人総合ケア推進協議会慣習

8 学生へのメッセージ

認知症の人に理解を深め，我々が関わることで認知症を患ってもその人らしい生活を送れるような支援のできる介護実践を身につけましょう。

9 教員氏名 （ 吉田直美 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（ 病院，介護施設にて看護師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（認知症の理解）

回数	授業内容
1	認知症を取り巻く状況
2	認知症の人の医学・中核症状理解
3	認知症の人の医学・行動・心理的理解
4	脳のしくみ
5	認知症の原因疾患 ①
6	認知症の原因疾患 ②
7	認知症の原因疾患 ③
8	認知症の診断と治療 ①
9	認知症の診断と治療 ②
10	認知症の予防
11	認知症の人の体験の理解 DVD 試聴
12	認知症の人の生活理解 ①
13	認知症の人の生活理解 ②
14	プレテスト・解説
15	前期定期試験
16	答案返却と解説
17	認知症ケア指導管理士試験対策 1章認知症高齢者の現状
18	認知症ケア指導管理士試験対策 2章
19	認知症ケア指導管理士試験対策 3章
20	認知症ケア指導管理士試験対策 4章
21	認知症ケア指導管理士試験対策 5章
22	認知症ケア指導管理士試験対策 6章
23	認知症ケア指導管理士試験対策 7章
24	認知症ケア指導管理士試験対策 8章
25	認知症ケア指導管理士試験対策 9章
26	認知症ケア指導管理士試験対策10章
27	過去問①模擬試験
28	過去問解説
29	過去問解説
30	プレテスト・解説
31	後期定期試験
32	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（障害の理解Ⅰ）

学科名 介護福祉科

学年 1年

1 授業の内容

障害のある人の心理や身体機能，社会的側面に関する基礎的な知識を習得すると共に，障害のある人の地域での生活を理解し，本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する。

2 到達目標

- ①障害のある人の生活を支援するという観点から，障害の概念や，障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解する内容とする。
- ②医学的・心理的側面から，障害による心身への影響や心理的な変化を理解する内容とする。
- ③障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ，機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し，QOLを高める支援につながる内容とする。
- ④障害のある人を支える家族の課題について理解し，家族の受容段階や介護力に応じた支援につながる内容とする。

3 授業の方法

事例を交え、ビデオ教材の使用。教科書を使用し、国家試験を見据えて重要事項を重点的に講義する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 10% 小テスト 10%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、質問の返答，グループワークでの積極性等を総合的に判断します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画表に沿って，事前に教科書の予習・復習すること。特に復習をすることで知識が定着する。
授業で配布する資料は各自がファイリングすること。

7 使用教材，教具

最新 介護福祉士養成講座 障害の理解 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

障害は，生まれた時からある人もいれば，病気や事故，あるいは年をとることによって発生する場合もあり，誰にでも生じる可能性のある身近なものです。そして，障害にはさまざまな種類があり，同じ障害でもその人ごとに症状や程度は違います。また，外見だけではわからない障害もあります。

障害のある人は，日常生活や社会生活を送る中で，不便なことや困難に感じていることがたくさんあります。そして，これらの中には社会によって作り出されたものが多く，周囲の人の理解やサポートがあれば，不便さや困難さを感じないで済むことがあります。

障害及び障害のある人に対する理解を深めていただき介護福祉士として活躍してもらいたいです。

9 教員氏名 （ 吉田 直美 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（ 病院，介護施設にて看護師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（障害の理解Ⅰ）

回数	授業内容
1	肢体不自由児（運動機能障害）の基礎的理解
2	視覚障害の基本的理解
3	聴覚・言語の基本的理解
4	重複障害の基本的理解
5	重症心身障害児の基本的理解
6	知的障害の基本的理解
7	精神障害の基本的理解
8	高次脳機能障害の基本的理解
9	発達障害の基本的理解
10	難病の基本的理解
11	国家試験問題 過去問①
12	解答解説
13	国家試験問題 過去問②
14	解答解説
15	前期定期試験
16	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ ころとからだのしくみⅠ ）

学科名 介護福祉科

学年 1 年

1 授業の内容

介護を必要とする人の生活支援を行いために、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。

2 到達目標

- ・介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。
- ・生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、ころとからだのしくみおよび機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。
- ・人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する。

3 授業の方法

P C プロジェクターを利用したパワーポイントによる講義である。教科書を使用し、講義内容を、国家試験を見据えて重要項目を重点的に講義する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 10% 小テスト 10%

5 評価の際の特記事項

小テストも評価点とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画表に沿って、事前に教科書の予習・復習すること。特に復習をすることで知識が定着する。授業で配付する資料は各自がファイリングすること。

7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ （中央法規出版）
書いて覚える介護福祉士国家試験合格ドリル

8 学生へのメッセージ

QOL（生活の質）を維持、向上の視点を持ち介護予防からリハビリテーション、看取りまで、介護福祉士の役割は大きい事を意識してください。対象者の状態の変化に対応できるよう知識を得て臨床に出た時に自信を持って介護が提供できる人材になってください。

9 教員氏名 （ 吉田 直美 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（ 病院、介護施設にて看護師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある常勤教員による授業科目

科目名（こころとからだのしくみⅠ）

回数	授業内容
1	こころのしくみを理解する:人間がもつ「欲求」 キーワード:マズローの欲求階層説
2	こころのしくみを理解する:脳の役割(認知・学習・記憶)
3	こころのしくみを理解する:適応のしくみ
4	からだのしくみの理解:人体各部の名称 ①脳 神経・細胞
5	からだのしくみの理解:人体各部の名称 ②血液:骨格:筋肉
6	からだのしくみの理解:人体部位の生理機能①
7	からだのしくみの理解:人体部位の生理機能②
8	身支度に関連したしくみ ①身支度行為の生理的意味
9	身支度に関連したしくみ ②爪,毛髪 of 構造と機能,日常生活での観察のポイントと医療職との連携
10	身支度に関連したしくみ ③口腔の清潔のしくみ,機能低下と障害の影響
11	移動に関連したしくみ ①移動の必要性
12	移動に関連したしくみ ②心身の機能低下した時に及ぼす影響
13	移動に関連したしくみ ③変化の気づきと対応
14	プレテスト・解説
15	前期定期試験
16	答案返却と解説
17	入浴・清潔保持に関連したしくみ ①入浴・清潔保持について
18	入浴・清潔保持に関連したしくみ ②心身の機能低下した時に及ぼす影響
19	入浴・清潔保持に関連したしくみ ③変化と気づき
20	食事に関連したしくみ ①食事のしくみ
21	食事に関連したしくみ ②心身の機能低下した時に及ぼす影響 ③変化と気づき
22	排泄に関連したしくみ ①排泄のしくみ
23	排泄に関連したしくみ ②心身の機能低下した時に及ぼす影響
24	排泄に関連したしくみ ③変化の気づきと対応
25	睡眠に関連したしくみ ①睡眠のしくみ
26	睡眠に関連したしくみ ②心身の機能低下が低下した時に及ぼす影響
27	睡眠に関連したしくみ ③変化の気づきと対応
28	死に行く人に関連したしくみ ①「死」を理解する②終末期から「死」までの変化の特徴
29	死に行く人に関連したしくみ ③「死」に対する心の理解④医療職との連携
30	プレテスト・解説
31	後期定期試験
32	答案返却と解説

科目名 (機能的解剖学)

学科名 介護福祉 科
学年 1 年

1 授業の内容

介護・福祉の現場で活躍されている多くの方々が腰痛で悩んでいるデータがある。
そこで介護福祉士に必要な解剖学・運動学に基づく身体活動（運動）を通して学び、
対象者や介護福祉士自身に応用できるような解剖学の知識を習得する。

2 到達目標

対象者の介護や介護福祉士自身のセルフマネジメントに応用できるような解剖学の
知識を習得する。

3 授業の方法

P C プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義と、その知識を応用した実技
を中心にした授業になります。

4 成績評価方法・基準

定期試験 60 %
実技試験 40 %

5 評価の際の特記事項

実技試験では、介護福祉士としてのマナーも評価対象とします。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

7 使用教材，教具

配布資料
実技の際は実習着を着用

8 学生へのメッセージ

介護技術中心の授業になります。しっかり身体で覚えて行きましょう

9 教員氏名 (田中 努)

所 属 (こころ医療福祉専門学校 理学療法科)

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名 (機能的解剖学)

回数	授業内容
1	機能解剖と運動感覚を用いた介護方法
2	介護に運動感覚の概念を導入する
3	対象者との情報交換の方法について
4	介護における機能解剖を深める
5	人の動きの理解を深める
6	人の機能の理解を深める
7	「力」の概念を介護に応用する
8	介護における環境整備を考える
9	介助への応用「上方移動」
10	介助への応用「横方移動」
11	介助への応用「側臥位」
12	介助への応用「座位」
13	介助への応用「立位」
14	介助への応用「立位移動」
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（医療的ケア I）

学科名 介護福祉科

学年 1年

1 授業の内容

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

2 到達目標

医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアに関連づけた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」、「安全管理体制」等についての基礎的知識を理解する。

3 授業の方法

P C プロジェクターを利用したパワーポイントによる講義のほか器具の名称、感染対策、手順を理解させる為座学以外に演習も行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 10% 小テスト 10%

5 評価の際の特記事項

授業態度、積極性は高く評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

- 基本研修（講義形式・実時間で 50 時間以上）養成課程で行う
 - 演習 ※基本研修を修了した学生に限る。就職先での実施
 - ・喀痰吸引：口腔（5 回以上）、鼻腔（5 回以上）、気管カニューレ内部（5 回以上）
 - ・経管栄養：胃ろう又は腸ろう（5 回以上）、経鼻経管栄養（5 回以上）
- ※併せて、救急蘇生法演習についても 1 回以上実施すること。

7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座 医療的ケア 中央法規

8 学生へのメッセージ

介護保険法等一部改正法により、平成 27 年度以降は介護福祉士がその業務として喀痰吸引等を行うことが可能となったため、介護福祉士養成施設の養成課程においても、医療的ケア（喀痰吸引等）に関する教育を行うことが必要となりました。

命を預かる行為です。真面目な態度で取り組んでください。

9 教員氏名（ 吉田 直美 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（ 病院、介護施設にて看護師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 医療的ケアⅠ ）

回数	授業内容
1	医療的ケア実施の基礎 第1章 第1節 なぜ医療的ケアとは 喀痰吸引制度について
2	医療的ケア実施の基礎 第1章 保健医療制度とチーム医療
3	医療的ケア実施の基礎 安全な療養生活 喀痰吸引、経管栄養の安全な実施
4	医療的ケア実施の基礎 安全な療養生活 救急蘇生演習
5	医療的ケア実施の基礎 清潔保持と感染予防
6	医療的ケア実施の基礎 健康状態の把握
7	経管栄養の基礎知識 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 経管栄養のしくみ
8	経管栄養の基礎知識 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 栄養剤・生じる危険
9	経管栄養の基礎知識 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説
10	経管栄養の基礎知識 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説
11	経管栄養の基礎知識 経管栄養時に起こるリスクと対応例
12	経管栄養の実施手順解説 経管栄養の実施の手順と留意点
13	経管栄養の実施手順解説 経管栄養の実施の手順と留意点
14	経管栄養に実施手順解説 経管栄養の実施の手順と留意点
15	経管栄養に関する国家試験対策問題実施・解説
16	まとめ
17	定期試験ト
18	答案返却と解説